

自然と文化 案内帖 | No. 003

発行 | 千葉県立中央博物館 2026年3月11日

はくさんじんじゃ

白山神社と白山神社古墳

【文化編】

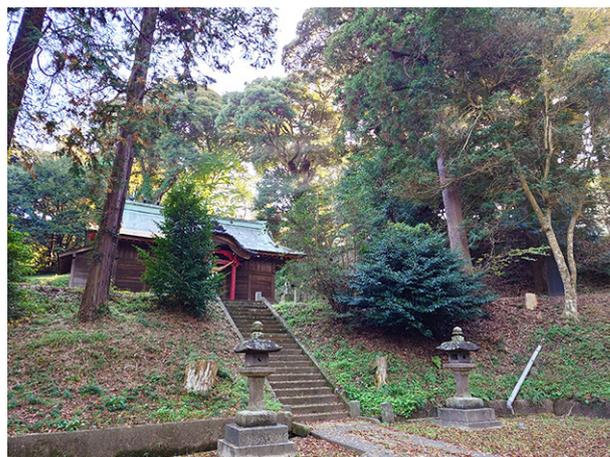
所在地：千葉県君津市俵田 1452

君津市俵田にある白山神社は、「たわらしん田原神」の名で平安時代の歴史書『にほんさんだいじつろく日本三代実録』（884年の記事）に記載されており古い歴史を持つ。拝殿に文政10年（1827）「田原神社」額が残されており、江戸時代までは田原神社、あるいは白山大権現と称していた。明治になってから白山神社と改称し、明治6年（1873）には郷社となって、これまで祭神としていたおおとものおうじ大友皇子に加えてきくりひめのみこと菊理媛命も祀られることになった。この神社を中心とする地域では大友皇子にまつわる伝説が残る。天智天皇の子の大友皇子は672年に起きたじんしん壬申の乱でおおあまのおうじ叔父の大海人皇子（後の天武天皇）と争い近江で敗死したという悲運の皇子だ。伝説では、遠く上総のこの地まで家来を連れて落ち延びたが、間もなく大海人皇子の追討を受けて亡くなり、この神社の裏手にある古墳に葬られたというのだ。

この古墳は、全長89m、高さ10mの大型の前方後円墳で、「白山神社古墳」として千葉県指定史跡となっている。近隣のいごづか飯籠塚古墳、せんげんじんじゃ浅間神社古墳とともにおびつ小櫃の三大古墳と呼ばれている。中でもこの白山神社古墳は、当初の形を良く留め、それを容易に間近で観察することができる。古墳の立地や形状から、築造時期は3世紀後半～4世紀代の古墳時代前期と推定されている。大友皇子が亡くなった7世紀とはかなり時間差があるため、現在では大友皇子の墓であるという説は否定されている。

古墳だけでなく、神社本殿も見どころの一つだ。大正15年（1926）に建てられた比較的新しい建築だが、所狭しと施された彫刻が一際目を引く。この彫刻は後藤庄三郎ちゅうめい忠明（1849～1934）の作である

こぶん



拝殿の奥には古墳がある



拝殿内にある「田原神社」額

ことが判明している。忠明は、江戸時代に活躍した安房の三名工の一人である後藤利兵衛義光の弟子で、龍や獅子を得意とし、安房及び君津地域の社寺を中心に活躍した。

この他、境内には江戸時代に遡る石造物が多くあり、この神社が古くから篤く信仰されていたことがうかがえる。古墳時代から現代に至るまで、歴史の重層性を感じることができるスポットだ。

協力：白山神社責任役員の皆様、君津市教育委員会
千葉県教育委員会



⑧ 本殿

大正 15 年 (1926) 建築
彫刻は後藤忠明、安房の三名工の弟子。全面に見事な彫刻が施されていて圧巻の見ごたえ。例大祭は 9 月 29 日 (近年は日曜日に開催)。



⑦ 拝殿

内部の欄間に明和 7 年 (1770) の銘がありこれが前身建物の年代と考えられる。現在の建物は明治 44 年 (1911) に屋根替えなどを行い改修したものとみられる。



⑥ 庚申塔

寛文 9 年 (1669) の銘がある。境内で年代が明記されているものの中で一番古い。



⑤ 狛犬

文化 2 年 (1805) に造られた狛犬。



④ 随神門

現在は瓦葺だが、かつては茅葺で、等身大の仁王像が祀られていたという。



八坂社
皇産霊社
子安社
子守社
天王社
八幡社
神明社
熊野社



⑩ 円墳



⑩ 円墳と謎の穴

明治 31 年 (1898) に八木装三郎が発掘したと見られる円墳。鏡 1 面と太刀 1 振出土。この他、谷向こうの円墳を発掘し、太刀、短刀、小刀等が出土した。その前にある穴は、御腹川に通じているという謎の穴。



⑨ 白山神社古墳

別名・小櫃山陵とも呼ばれた全長 89m 高さ 10m を測る古墳時代前期の前方後円墳。整った墳形を間近で堪能することができる。大友皇子の陵墓という説もあったが、現在では否定されている。千葉県指定史跡。



③ 手洗石

元文 6 年 (1741) の銘がある石製の手水鉢。



② 池

湧水によってつくられている池。水への信仰の場である白山神社には欠かせない。



① 石鳥居

国道沿いにある大きな享和元年 (1801) に造られた石製の鳥居。